

第33回 淑瞳会

●講演者プロフィール 講演抄録

万代道子

理化学研究所 多細胞システム形成研究センター
網膜再生医療研究開発プロジェクト 副プロジェクトリーダー



略歴

1988年 京都大学医学部卒業
京都大学医学部附属病院眼科学教室入局
1989年 関西電力病院眼科
1990年 京都大学医学部大学院博士課程
1994年 京都大学眼科学教室助手
2000年 米国NIH研究所客員研究員
2002年 京都大学病院探索医療センター助手
2006年 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター
網膜再生医療研究チーム研究員
2006年～ 神戸市立医療センター中央市民病院 非常勤医師
2011年～ 先端医療センター病院 眼科副部長
2013年～ 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター
網膜再生医療研究開発プロジェクト 副プロジェクトリーダー

『iPS 由来細胞/組織を用いた網膜の再生医療』

iPS 細胞からはほぼ生体内のものと遜色ない網膜色素上皮や網膜細胞を分化培養により得る事が出来る。このことからこういった組織や細胞を用いた移植治療が網膜疾患に対する治療選択として現実的なものとなってきた。加齢黄斑変性の発症には網膜色素上皮の老化による機能低下が大きく寄与している。過去に欧米で行われた新生血管の抜去術と自己周辺部の網膜色素上皮移植の経過をみても、培養によって得られた自己または免疫適合性のよい網膜色素上皮を安全に移植できるならば一つの治療法となると考えられる。昨年我々のチームは滲出性加齢黄斑変性に対し、自己 iPS 細胞由来網膜色素上皮シート移植の臨床研究を開始し、昨年一例目の手術を行った。現時点での問題は治療そのものより、いかに移植片の安全性をコストや現実性が見合う形で担保するということであろうか。今後の展望と併せてお話しする。

また我々は網膜色素変性の患者に対し、iPS 細胞より分化した視細胞組織の移植、も次の臨床応用の課題としてすすめている。マウスにおいてはホストの2次ニューロンと移植した視細胞がシナプスを形成することを示唆する所見を得ているが、現在の研究の進捗段階を紹介する。

●演奏者プロフィール

トリオ「一期一会」

1年半前の師走に偶然同じ会に誘われ、3人でこの曲を共演する機会に恵まれました。今回このような機会を頂きまして急遽トリオを結成、3人でブラームス最晩年の名曲に取り組んでみることにしました。演奏者同士の出会いも、聞いて下さる人との出会いも、「一期一会」の心がけで挑みたいと思います。このひとときを共に楽しんで頂ければ幸いです。



クラリネット 越野 倫巨 (こしの ともみ)

高校生で吹奏楽部に入部し、クラリネットを始める。1999年から元京都市交響楽団クラリネット奏者、石橋耕三氏に師事。現在、枚方フィルハーモニー管弦楽団、A P A (アマチュア音楽家協会)に所属し、様々な音楽活動を行っている。

チェロ 西沖 達也 (にしおき たつや)

大学より京都三大学交響楽団に所属してチェロを始める。社会人になって1997年よりグリーン交響楽団に所属し、2001年より9年間パートリーダーを務める。現在は室内楽を中心に演奏活動を行う。白石将、堺靖師、斎藤建寛の各氏に師事。

ピアノ 万代 道子 (まんだい みちこ)

3歳から小学校高学年までピアノを習う。その後長いブランクを経て35歳でピアノを再開。アマチュアサークル会などに参加。豊田恵津子氏、坪井真理子氏らに師事。

演奏曲目 ブラームス クラリネット三重奏 イ短調 作品114 1-4楽章